

令和2年度

グリーン・ツーリズムネットワーク活動支援事業
報告書



令和3年3月

沖縄県 農林水産部 村づくり計画課

受託 : 特定非営利活動法人 自然体験学校

目 次

事業概要	…	1
実施内容		
(1) 沖縄県グリーン・ツーリズムネットワークの組織活動支援	…	3
ア. リスクマネジメント・スキルアップ研修の実施	…	3
① 沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター養成講習会		
② 救急蘇生法講習会(計3回)	…	8
③ 教育民泊勉強会(リスクマネジメント研修会)	…	10
④ 新型コロナウイルス感染症に対するマニュアルの作成	…	15
イ. 農村交流・体験プログラムの開発	…	15
ウ. グリーン・ツーリズムネットワークPR資材の作成	…	15
(2) グリーン・ツーリズムに関する情報発信とプロモーション活動	…	16
ア. ツーリズム EXPO ジャパン旅の祭典沖縄への参加	…	16
イ. おきなわ花と食のフェスティバルへの出展	…	19
ウ. その他プロモーション活動	…	19
(3) 本事業終了後のグリーン・ツーリズムネットワークの自走化を見据えた仕組みづくり	…	20
ア. 先進地視察(神奈川県 大井町)	…	20
イ. 「沖縄、ふるさと百選」認定団体におけるグリーン・ツーリズム実施状況調査	…	24
ウ. 沖縄県内のグリーン・ツーリズム関係団体への訪問	…	25
エ. ロードマップ案について	…	27
総 括	…	30

グリーン・ツーリズムネットワーク活動支援事業

事業概要

グリーン・ツーリズムネットワークの組織活動支援等を通して、ネットワーク加入のメリットを確立し、実践者のスキルアップによる受入品質の向上、安心・安全な受入体制を整備・強化することで、農山漁村地域の活性化に資することを目的とする。

実施内容

- (1) 沖縄県グリーン・ツーリズムネットワークの組織活動支援
 - ・リスクマネジメント・スキルアップ研修会の実施
 - ・農村交流・体験プログラムの開発
 - ・ネットワークのPR資材の作成
 - ・組織の認知度向上、会員のインセンティブを高める取り組み
- (2) グリーン・ツーリズムに関する情報発信とプロモーション活動
 - ・ツーリズム EXPO ジャパン2020への出展
 - ・おきなわ花と食のフェスティバル2021への出展
- (3) 本事業終了後のネットワークの自走化を見据えた仕組みづくり
 - ・施策の検討、ロードマップの作成



・主催
 沖縄県農林水産部村づくり計画課

・受託
 特定非営利活動法人 自然体験学校

・委託業務の期間
 令和2年6月22日 ～ 令和3年3月26日

・実施スケジュール

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)GTNの組織活動支援		地域状況の調査 及び 農村交流・体験プログラムモデル作成								
						認定救急蘇生法 講習会 11/22	認定救急蘇生法 講習会 12/6・20			体験活動リーダー 講習会 3/11～14
		教育民泊向け勉強会を実施(2～3回)								
		ふるさと百選認定団体との連携や調査								
		新型コロナウイルスマニュアルの作成及び修正								
(2)情報発信とプロモーション活動		ツーリズムEXPO & FAMツアー 準備展示方法検討・備品調達			10月29～11月1日					
						花と食のフェスティバル 準備展示方法検討・備品調達		※2月6～7日 出展中止		
(3)自走化を見据えた仕組みづくり		視察先の検討、調整作業					先進地視察 12/13・14			
その他		村づくり計画課と相談・調整・報告(随時) 進捗状況報告(9/3 ・ 10/9 ・ 11/2 ・ 12/4 ・ 1/13 ・ 3/9)								
		業務内容まとめ(随時)・会計業務・書類整備								

(1) 沖縄県グリーン・ツーリズムネットワークの組織活動支援

ア. リスクマネジメント・スキルアップ研修の実施

① 沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター養成講習会

グリーン・ツーリズムを実践していくために必要なリスクマネジメントを理解し、実践できるスキルの習得、農山漁村体験交流プログラム作成に必要な知識・技術を学ぶ講習会を実施した。座学で知識を得るとともに、グループワークでプログラムの立案から実施まで通して行うことで、実践に近い形で学び、沖縄県として初のグリーン・ツーリズムインストラクターを養成した。

実施日：2021年3月11日（木）9：00～3月14日（日）17：30 3泊4日

実施場所：沖縄県立 糸満青少年の家

参加人数：21名（男性 13名 女性 8名）

参加費：受講料・テキスト・キット・糸満青少年の家宿泊料無料

参加費15,000円（食費、認定登録費、他含む）

講師：全国体験活動指導者認定委員会主任講師・L.S.F.A.インストラクター3名

修了：① 沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター

認定登録：② NEALリーダー

③ L.S.F.A. Basic Skills—First Aider with CPR&AED

本講習会は、環境省環境教育指導者人材認定等事業に登録されています。

配布物：指導者テキスト・救急蘇生法テキスト・救急蘇生法キット

※新型コロナウイルスの影響により開催日、及び会場の変更があった。

- ・ 1月21日～24日 ネイチャーみらい館にて予定していたが、緊急事態期間が2月7日まで延長となったことから同会場にて延期を決定。
- ・ 2月25日～28日 ネイチャーみらい館にて予定していたが、緊急事態期間が2月末日まで延長となり再延期とした。そのことにより、会場が確保できなかったため沖縄県立糸満青少年の家に変更することとなった。

<< 講習会の詳細 >>

1日目：3月11日（木）

時間	内容
08:00～09:20	駐車場で抗原テスト 受付 名札・テキスト 配布
09:20～09:40	主催者挨拶：村づくり計画課 近江氏 講師紹介、連絡・諸注意、講習会中のコロナ対策について、講習会説明
09:40～11:15	講義「体験活動指導者リーダーについて」他
11:15～11:50	アイスブレイク
11:50～12:00	糸満青少年の家オリエンテーション・部屋移動
12:00～13:00	昼食
13:00～14:25	環境教育プログラム
14:25～15:45	講義「体験観光と体験学習を活用したまちづくり」「(教育)民泊体験について」他
15:45～18:20	グループワーク
18:30～22:30	夕食・自己紹介タイム・グループワーク

2日目:3月12日(金)

時 間	内 容
09:00~10:15	講義「体験活動の安全対策について」他
10:15~12:00	L.S.F.A.Basic skills—FirstAider with CPR&AED 当初の観察と接触／気道確保と回復体位
12:00~13:00	昼食
13:00~16:00	L.S.F.A.Basic skills—FirstAider with CPR&AED CPR心肺蘇生／気道内異物の除去/AEDの使い方／止血法／全身のケガの調べ方／ 病気の調べ方練習／実技チェック
16:00~19:15	グループワーク・夕食
19:15~20:30	講義「体験活動の安全対策について」「指導者のための保険の知識について」他
20:30~22:30	グループワーク



3日目:3月13日(土)

時 間	内 容
09:00~10:15	講義「青少年教育における体験活動」他
10:15~22:30	グループワーク・昼食 グループ毎に体験の練習、書類作成（全グループ最終提出は 22:30）

4日目:3月14日(日)

時 間	内 容
09:00~10:15	プレゼンテーション(実施順) 「ちむどんどん」「チームシーサー」 「NPO 法人いちやりばちよーでー」「日本ペットボトル愛好会」
10:15~11:20	実踏① 「日本ペットボトル愛好会」
11:20~12:30	実踏② 「ちむどんどん」
12:30~13:15	昼食
13:15~14:30	実踏③ 「チームシーサー」
14:30~15:40	実踏④ 「NPO 法人いちやりばちよーでー」
15:40~16:00	各班、反省点の発表、ふりかえり
16:00~17:00	合格発表 筆記テスト、申請書記入
17:00~17:30	沖縄県村づくり計画課 桃原課長より修了証・認定証の交付 挨拶、記念撮影 講習会終了
17:30~18:30	会場片付け

【各チームの主な実施プログラム】

グループ①「日本ペットボトル愛好会」

モルック体験を通して、楽しく、ごみの活用や分別について、親子で学ぶ環境・SDGs プログラム。



グループ②「ちむどんどん」

野外でヒラヤーチー作り。フードロスを考え、無くす SDGs プログラム。



グループ③「チームシーサー」

段ボールで窯を作り、摘んだ野草を入れた簡易ピザを作る体験。



グループ④「NPO 法人いちゃりばちョーデー」

沖縄の文化であるエイサーの太鼓ストラップ作りを通して、環境を考える。ペットボトルの蓋の活用。



<考 察>

沖縄県のグリーン・ツーリズム推進に向け、「安心・安全」の体制で受入れを行っていくために、沖縄県として初のグリーン・ツーリズムインストラクター養成講習会を開催した。

新型コロナウイルスの影響で2度の日程延期等があったが、沖縄県内から北部、中部、南部、離島（石垣島、宮古島）と幅広い地域からグリーン・ツーリズムの実践者が集まり、21名の参加者が4日間の講習を修了し、沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター1期生として農林水産部長名で修了証を授与された。

この講習会では、グリーン・ツーリズムを実践していくために必要なリスクマネジメントを理解し、農山漁村体験交流プログラム作成に必要な知識・技術といった実践に役立つスキルを習得した。

講義で知識を得るとともに、グループワークでプログラムの立案から実施まで通して行うことで、実践に近い形で学び、安全管理の必要性について身をもって感じていただけたと思う。

救急蘇生法については、最新のガイドラインに沿った手順で練習し、コロナ禍での応急手当の対応を踏まえて学んでいただけた。何度も繰り返し練習し、最終的には全員が技術を習得できた。

講習内容は、グループワークの進行状況などにより、予定の時間割から変更した部分もあった。

グループでの合意形成、そして作業の分担、実践に向けた練習などに時間を要して、提出物が遅い時間になってしまったグループもあったが、最終的には全員でひとつのものを作り上げ、課題を全て提出し、実践、試験を迎えることができた。

4日間の講習の内容は、受講者にとって初めての経験が多く、体力的にも精神的にも大変だったと思う。グループワークでは、年齢も、仕事も、住んでいる環境も異なり、考え方も違うため、意見をまとめていくことが大変だったと思うが、受講者一人一人が、大変努力をされ、講習会を修了することができた。

今後は、県内実践者や観光協会などの、受講生を増やし沖縄のグリーン・ツーリズム（体験観光）の安心・安全につながる事を切望する。



日本ペットボトル愛好会



ちむどんどん



チームシーサー



いちやりばちよーでー

沖縄でグリーン・ツーリズムのプロを目指してみませんか？

沖縄県グリーン・ツーリズム インストラクター講習会



沖縄県では、グリーン・ツーリズム実践者の人材育成と、「安心・安全」の体制づくりを行っています。プログラムの計画から実施まで、安全に体験を行うための方法を学びます。全日程を修了すると、「沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター」の修了証が授与されます。※「環境省人材認定等事業認定事業」となります。

講習の内容

- ・グリーン・ツーリズムや体験観光について
 - ・体験の指導方法や安全対策
 - ・リスクマネジメント、救急蘇生法の実践
 - ・体験プログラムの企画・実施(グループワーク) など
- ※講習には座学と実技が含まれます。

資格認定

- ・NEALリーダー(自然体験活動指導者)【終身登録】
- ・L. S. F. A.救急蘇生法【有効期限2年間】
- ・修了後希望により「指導者賠償責任保険(2,000円 1年間)」に加入できます。

2021年 3月11日(木)～14日(日)

※3泊4日のため
宿泊を伴います

3月11日の受付 受付8:30～ 講習開始9:00～ / 3月14日の講習会終了17:30

会場 沖縄県立 糸満青少年の家
沖縄県糸満市字賀数347番地
TEL 098-994-6342

宿泊 沖縄県立 糸満青少年の家
(基本個室対応/予約状況により最大2名までで
男女別相部屋をお願いする場合があります)

参加料 15,000円

(受講料、テキスト、認定料、宿泊費(3/11～14日の3泊・食費10食分含む)※現地までの交通費&10・14日の宿泊は含みません)

【コロナ対策の上講習会を実施します】 初日受付時の抗原検査、毎日の健康チェックなど

対象 18歳以上/20名
定員

- ・沖縄県グリーン・ツーリズムネットワーク会員及び
会員団体に所属するグリーン・ツーリズム実践者
 - ・県内のグリーン・ツーリズム活動団体及び
グリーン・ツーリズム実践者
 - ・グリーン・ツーリズム(農家民宿・体験)に関心のある方
- ※応募者多数の場合は、グリーン・ツーリズムネットワーク
会員を優先させていただきます。

締切 2021年3月1日(月)

主催/沖縄県農林水産部村づくり計画課 共催/沖縄県グリーン・ツーリズムネットワーク

【お申込・お問合せ】NPO法人自然体験学校

<電話>098-998-0330 <FAX>098-998-3808 <メール>okinawa@shizentaiken.com

令和2年度グリーン・ツーリズムネットワーク活動支援事業

②救急蘇生法講習会（計3回）

「安心・安全」な受入れの体制整備において、受入れ時におけるお客様のケガや事故などに対応できる最低限のスキルが必要とされることから、1人でも応急手当ができる知識や技術を習得できる認定救急蘇生法講習会を本島2地域・離島1地域の全3地域で実施した。

また、新型コロナウイルスに配慮した講習会とし、手当者が新型コロナウイルスの感染を防ぐことができる応急手当の対応方法で実践した。

【第1回 南部地区】

実施日：2020年11月22日（日）10：00～16：00

実施場所：沖縄県空手会館

参加人数：9名

参加費：受講料・テキスト・キット無料、認定登録費（希望者）2,750円

講師：L.S.F.A.インストラクター 1名

【第2回 北部地区】

実施日：2020年12月11日（金）10：00～16：00

実施場所：大宜味村農村環境改善センター

参加人数：20名

参加費：受講料・テキスト・キット無料、認定登録費（希望者）2,750円

講師：L.S.F.A.インストラクター 2名

【第3回 離島：宮古島】

実施日：2020年12月20日（日）10：00～16：00

実施場所：宮古島市城辺公民館

参加人数：26名

参加費：受講料・テキスト・キット無料、認定登録費（希望者）2,750円

講師：L.S.F.A.インストラクター 3名

共通事項

カリキュラム：

09:30	受付
10:00	講習開始・挨拶 グリーン・ツーリズムについて 当初の観察と接触(事故現場の安全確保、感染症の防止など) 気道確保と回復体位(意識不明時の対応)/CPR/心肺蘇生
12:00	昼食
13:00	心肺蘇生と除細動、気道内異物の除去(窒息時の対応) 止血とショック管理(直接圧迫止血、止血点圧迫法)
15:00	実技確認・認定登録申請書記載
16:00	講習終了

認定登録：L.S.F.A. Basic Skills—CPR&AED

配布物：救急蘇生法テキスト・救急蘇生法キット



松原会長の挨拶



グリーン・ツーリズムの説明



救急蘇生法講習会の様子



救急蘇生法講習会の様子

<考 察>

各施設の新型コロナウイルス対策に準じて実施した。講習内容についても、新型コロナウイルス拡大防止の対策をしながら講習を行った。

テキスト、映像、実技練習を繰り返し行い、最終的に一人一人が実技を実施できるようになった。

また、グループでの実技練習であったため、参加者同士が協力し合いゴールが達成できた。

参加者は実技も積極的に行い、しっかりと救急蘇生法が身についた。

以前に救急蘇生法講習会を受講されたことがある方も多かったが、定期的を受講してもらうことで復習にもなった。

新型コロナウイルスの影響もあり、応急手当の方法も感染拡大に配慮した手当が必要となる。今回は最新の情報に基づいた講習内容とし、手当側が感染しない方法も学んだが、今後も新しい情報にアップデートすることがあると思うので、会員団体に向け継続的に講習会を実施する事が望ましいと考える。

③教育民泊勉強会（リスクマネジメント研修会）

新型コロナウイルス感染症の拡大に関連して、受け入れ側が正しい知識を身に付けるため、観光に対する危機管理を学ぶための講演会、及び意見交換会を実施した。

なぜ観光に関する危機管理が必要なのか、新型コロナウイルスの対策などについて、観光危機管理専門の講師を招聘し実施した。また、事前に関係団体にアンケートを取り、講演終了後、講師も交えて意見交換を行った。

講演：『これからのグリーン・ツーリズムと教育旅行民泊の受入を考える
～観光危機管理の視点から～』

実施日：2020年11月4日（水）13：30～16：00

実施場所：沖縄県教職員共済会館八汐荘中会議室

参加費：無料

講師：株式会社サンダーバード 代表取締役 翁長 由佳 氏

那覇市出身 首里高校／玉川学園大学文学部外国語学科卒

・平成5年～平成31年3月まで

一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューローに勤務（コンベンション振興室・イベント推進課・コンベンション振興部・沖縄コンベンションセンター・国内受入推進課・国内プロモーション課・企画・施設事業部）

・沖縄県国際会議事務局（福祉サミット・米州開発銀行年次総会）、日本政府観光局（JNTO）に出向経験有

・令和元年6月に株式会社サンダーバード設立

参加人数：25名

参加団体：宮古島さるかの里・石垣島観光・NPO 法人おおぎみまるとツーリズム協会

NPO 法人東村観光推進協議会・ネイチャーみらい館・NPO 法人自然体験学校

一般社団法人宜野座村観光協会・一般社団法人今帰仁村観光協会

一般社団法人伊平屋島観光協会・琉球大学

事前アンケートの回答：17団体（当日欠席団体含む）



講師：翁長由佳氏



意見交換会の様子

意見交換会

テーマ：新型コロナウイルスに対する今後の対応

アドバイザー：株式会社サンダーバード 代表取締役社長 翁長 由佳氏

司会：沖縄県村づくり計画課 上地班長

進行：沖縄県グリーン・ツーリズムネットワーク若林副会長

意見交換に関するアンケート 集計結果 回答数団体(重複回答あり)

・アンケートに回答した全ての団体が、受け入れに影響があると答えた。詳細は以下の通り。

質問①新型コロナウイルス感染症に関して、受け入れ(学校数など)に影響はありますか？	
受け入れが増えた	0
特に変わらない	0
受け入れが減った	17
質問②新型コロナウイルス感染症に関して、受け入れ家庭数に影響はありますか？	
家庭が増えた	0
特に変わらない	2
家庭が減った	15
質問③ 感染拡大により、受け入れ家庭が不安になり、今年度の受入れをしたくないという状況があるかと思いますが、どのように対応していますか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在は年度末まで受入れを中止している。 ・受入れ家庭の意思を尊重している。 ・受入れを不安に思う人は、何かあった時こちらが責任を取れないので、お願いせず、受入れできるキャパで民泊を実施している。受入れできない学校は断った。 ・受入れ家庭が減少したぶん、受入人数を減らしたのと、減少により家庭が足りなくなった学校はお断りした。 ・受入れ家庭に対しての民泊受入意思確認等の提出(50件中13件の減)。 ・一応受入人数を減らし(最大200)受入れ実施の予定。 ・今年度については、受けたくないという家庭には無理強いせず、できる家庭のみで対応している。次年度以降は、様子を見ながら声かけをしていく。 ・今年度は、民泊受入れを中止致しました。 ・事務局で受入れを今年度行わないことを決定したため、声かけをしてコミュニケーションをとるようにしている。 ・2020年2月以降、無期限で受入れをストップ。 ・役場の保健師をお願いし、勉強会をする予定。 ・民泊受入れにおける、新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン作成、配布。 ・ガイドライン説明会及び意見交換会文書面での事前アンケート配布。 ・対応する方法を思案中。 ・民家への負担を減らす為、消毒液の製造機の準備やマニュアル作成を早い段階より進めてきましたが、コロナ対策に対して沖縄県及び石垣市の対応は万全でなく、不安を払拭できない現状にあります。医療体制や集団感染が起こった際の事業者を含めた会議をとるべきだと考える。 ・民泊サイドからすると感染拡大への不安が非常に大きく、数も大分減ると思われ、受け入れ態勢のルールをシステム化を徹底(出発14日前からの検温、体調記録、渡航歴)して安心感がなければならないと思う。 	
質問④新型コロナウイルス感染症対応のマニュアル・ガイドラインを作成していますか？	
作成している	16
作成していない	1

質問⑤新型コロナウイルス感染症に関して、対外的に情報発信していますか？	
情報発信している	14
情報発信していない	3
質問⑤「情報発信をしている」とお答えした方へ、どのような方法で情報発信をしていますか？	
<ul style="list-style-type: none"> ・9月まで民泊をしないようにと、行政から言われ、その旨の文章を送付した。 ・ガイドライン及び受入定員数変更連絡等、文書で発信している(SNS)。 ・当館や地域の状況を伝えている。 ・新規予約受付の停止などを行っている。 ・ホームページへの記載。 ・施設のガイドライン等、HP・FBにUP公表している。 ・状況に応じて行っている。思案中でもある。 ・ガイドライン公表、受入中止表明。 ・旅行社宛にガイドラインや情報を送信しています。 ・旅行会社、学校への案内。 	
質問⑥今後の受け入れについて不安に思っている事があればご記入ください。	
<p><対学校・生徒 受け入れ時のコロナ対策についての意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に民泊を受入れた際、感染者が出た場合の具体的な対応。 ・感染の疑いの人が出た場合、公共交通機関を使用できないと聞いたが、先生や旅行社の方が車を運転できない場合は、どのように病院に連れて行けばよいか。 <p><対家庭・地域 受け入れに伴うリスクと家庭数についての意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがいる家庭は、保育所や学校に感染させてしまう心配がある。 ・狭い島で万が一クラスターの発起となった場合、地域の方々とのつながりに影響を及ぼす恐れが不安。 ・教育旅行民泊(沖縄)で発生した場合の今後の影響を懸念している。 ・受入れを怖がる民家も多いので受入れキャパが足りるのか、確認中。 ・今回受入れを中止したご家庭が、今後も受入れできるか、家庭数の確保が不安。 ・受入れ民家さんの事業に対する意欲の減少が見られること。 <p><今後の民泊受入れについての意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般観光受入については実施していますが、コロナ対策は不安要素があり模索中。 ・今後、沖縄県内の患者が増えるようであれば、今年中、今年度中の受入れは無理だと考えている。 ・次年度の受入れについて、実施できるのかどうか検討中。 ・来年度以降はたして民泊等の受入が行えるかが不安である。 ・次年度の民泊をどう受入れるか。 <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策や、入村、離村の仕方等、細かい所を決めないといけない。 ・コロナの薬ができれば受入れしたいと思う。 ・民泊、ツアー等、受入れをストップし、今後も再開予定はありません。グリーン・ツーリズムの実施を廃止も含めて、検討しているところです。 	

<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2波における県の教育旅行、民泊、県外への自粛要請について。 ・集団感染及び医療体制。 ・田舎地域での活動の為、受入れに伴った感染(移入)が発生してしまうことに恐怖を感じるが、県や国の経済優先の方針の中で、どのように共存していくべきか苦慮している。 ・ヒアリングした結果、受入民家でも考えにバラつきがある。受入を希望する方、現段階では受入したくない方。 <p>行政において「おねがい」ベースではなく、しっかりとした対応策を出さないと進まないかと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後どのような状況になっていくかがわからない。
<p>質問⑦ご質問があればご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナは、日常生活の中で、どうすれば感染して、どうすれば感染しないのか、知りたい。 ・5月末に県にてコロナ接触アプリの検討が入り、その後どうなったのか。 ・沖縄以外での現状はどのようになっているか、ルールブックなどの内容・現状を知りたい。

講演終了後の意見交換・質疑応答

参加者からの質問に対して、翁長氏から回答していただいた。

質問①	受入れ側と訪れる側が対策の必要性を理解し、協働していく必要がある。受入れ側ではガイドラインを作成して周知するなど進めているが、今後、水際対策として修学旅行生にPCR検査が実施されていくことはあるのか。
回答①	現段階では、金銭面での負担が大きく現実的には厳しい。検査費用を誰が負担するのが問題となり、修学旅行費に上乗せする形で実施していくしかない(受入れ事業者、旅行会社等が負担するのは難しい)。国や県が負担する制度ができれば、PCR検査が実施されるようになるのではないかと。 旅行2週間前の体調管理をお互いに行うこと、持病があり不安な家庭には身を引いてもらうことで対応を進めていくと良いと思う。
質問②	修学旅行や民泊が減っていく中で、今後どうしていけばよいか。
回答②	発信していくことが大事だと思う。また、修学旅行を受け入れる組織として、連携する必要がある。修学旅行は他の旅行と違って、保護者の思いも関わってくる。すぐにコロナ前のような状態に戻すのは難しい。2年後を見据えた仕組み作りを進めると同時に、沖縄の現状、取り組みを発信し続けることが求められる。オンラインで修学旅行をする、民家とのお話のみを行うなども効果的だろう。
質問③	受入れ時に、体調不良の生徒や感染疑いのある生徒が出た場合、TACOを活用できるのか。いざというときに、電話対応をしてくれるのか、本当に利用してもよいのか。
回答③	相談する窓口の存在があるということが大きい。TACOは6:00～23:00まで対応可能で、時間外用のコールセンターも開設されている。 また、TACOに電話をすれば解決すると期待せず、近隣の「かかりつけ医・産業医」と連携することも重要。北谷町では、中部医師会と連携している事例がある。

質問④	コロナの影響もあり、県内の子どもを受入れる機会が増えた。対策実施に関して、ルーズな部分があるのが現状だが、どのように対応すればよいか。
回答④	マニュアル上のルールはあるが、実際行われる現場での対応・伝え方は非常に難しい。以下、対応例。 ・事前に引率者に、クラスターが発生したらお互いに良くないことを伝えルールをきちんと理解してもらおう。 ・ソーシャルディスタンス(例えば1mの距離)を可視化する。 ・距離があり声が大きくなる場合は、手話や共通のサインなどを作る。 ・発熱・体調不良者が出て入場をお断りする場合は、カードをお渡しする。表には「体調が良くなったらまたお越してください」、裏には「体調に不安がある場合の連絡先はこちらです」など。
質問⑤	県外のお客様は「コロナと共存していく社会だ」と強気、県内では「命を守ることが第一優先」と譲れない。両者のギャップが大きい場合、どのように対応すればよいか。
回答⑤	断る前提であれば「当面の間は、県内での需要に応じていきたい。」あるいは「受入れ家庭や従業員の中には、高齢の方や持病をお持ちの方もいらっしゃるの、With コロナの時代といっても積極的に受け入れはできない。」と伝えてもよいと思う。組織としてどのような方針を持つかによる。
質問⑥	周辺地域では修学旅行が中止・方面変更をするなどして自粛・縮小の方針で動いている。今後、地域の方の理解を得られるのか不安。地域の方としては「まさか来ないよね？」という気持ち。
回答⑥	地域の方の理解を求める必要がある。県民の理解を促すようPRしてもらえよう県に働きかけるなど。例えばOCVBは、観光産業が危機状態にあるということを県民向けにPRする事業を予定し公募しているところ。
質問⑦	「コロナが心配で休みたい」という民泊家庭が全体の3割程。ガイドラインは、第4版まで作成した。改訂に向け、食事・浴室などのルールをどう設定すればよいか。
回答⑦	民泊をなくすというより、どのようにクリアしていけばよいかということ、沖縄全体として考えていけたらベスト。具体的な対策は以下の通り。 ・浴室・トイレには、イスや器具などは極力置かない。シャンプーなども家庭用は片づけ、生徒本人が持参したものをかわせるなどする。 ・食事は、大皿から直箸で料理をいただくということがなければ良いのではないかと考える。個々のお皿に分けるなど。「一緒に料理を作って、食事をいただく」という体験は民泊の醍醐味。家庭側が話をするタイミングでマスクを着用するなどの対策は必要。
質問⑧	感染疑いのある人は公共機関を利用できないと聞いた。感染疑いのある生徒が出た際、先生や旅行会社が運転はできないとした場合、どのように移動させたらよいのか。
回答⑧	受入れ事業者の中で予め1人だけ移動対応者を決めておく。また、保健所に状況を説明して指示を仰ぐ。エリアとして、対策を考えていくのであれば、移動用の対策車を用意できないか相談してみることもできる準備の1つ(実際には難しいことが多い)。レンタカー、ホテルの部屋の手配について、ルール化しても良いと思う。
参加団体からの意見	
<p>①感染者が出たときのために、予めホテルの部屋やレンタカーの手配をしておくように旅行会社側に依頼している。役割を明確にし、きちんと受入れの条件を提示することも大事。</p> <p>②レンタカーの手配・運転は旅行会社が行い、家庭の場所が不明なため、別の車で事業者が先導を行うことにしている。予め伝えている。</p>	

<考察>

新型コロナウイルスで大きな影響を受けている受入れ側(事務局)にとって、大変興味のある内容であり、今後の対策の上でも役に立つ内容となった。事前のアンケートでも受入れに対する不安が多く感じ取れ、民泊団体に於いては新型コロナウイルスの対応の他、受入れ家庭の減少といった悩みも多く挙げられた。同じような悩みを持っていることが把握できたので、今後もグリーン・ツーリズムネットワーク会員間においても、情報共有が必要と感じた。

④新型コロナウイルス感染症に対するマニュアル〈ひな型〉の作成

新型コロナウイルスの対策として、受入れ側が正しい知識を得て、対応方法を知り、with コロナでの受入れを進めて行く必要がある。そこで、本事業に於いて基本的な新型コロナウイルスの知識から、受入側の対応、旅行会社や学校に対するお願いなどを含め、グリーン・ツーリズムネットワーク会員が地域の実情等に応じて修正できるマニュアルのひな型を作成した。

下記内容について、マニュアルを作成した。

- ・新型コロナウイルス感染症について
- ・グリーン・ツーリズムなどの体験を実施するときの基本原則
- ・グリーン・ツーリズムや体験のガイドライン
- ・民泊受入れ家庭向け対策と対応について、など

(別 添) グリーン・ツーリズムにおける新型コロナウイルス感染拡大防止マニュアル

<考察>

新型コロナウイルス対策のマニュアルについては、どこまでの対策が必要なのかという点において時間の経過とともに変わるため、現段階のものではあるが、受入れ側が共通して参考にできるマニュアルを作成することができた。グリーン・ツーリズムの受入れにおいて統一した安全体制を構築するためには必要なものであり、今後各団体で修正・更新していくことで、より活用できるマニュアルになると考えている。

イ. 農村交流・体験プログラムの開発

グリーン・ツーリズムネットワーク会員や関係団体に協力をいただき、以下の体験マニュアルを作成した。マニュアルについてはグリーン・ツーリズムネットワーク会員が活用できるようにする。

(別 添) パインアップル収穫体験マニュアル

(別 添) 魚さばき体験(カツオ・マグロ)マニュアル

ウ. グリーン・ツーリズムネットワークPR資材の作成

会員よりロゴマーク等のデザイン改定の意見があったことと、花食フェスティバルでのPRに向けてPR資材を作成予定だったが新型コロナウイルスの影響により出展取りやめとなったこともあり、今年度の資材作成は次年度以降に見送った。

(2) グリーン・ツーリズムに関する情報発信とプロモーション活動

ア. ツーリズム EXPO ジャパン旅の祭典沖縄への参加

以下の日程に於いて、グリーン・ツーリズムネットワーク会員団体のチラシを配布し PR を行った。来場者からの情報収集を行い、約130名と名刺交換を行った。

なお、グリーン・ツーリズムネットワーク会員が実施する FAM ツアーについては、新型コロナウイルスの理由により、予定していた受入れ3団体から受入れ中止の申し出があり実施不可となったため、ブース出展のみの対応となった。

会 場 : 沖縄コンベンションセンター 展示棟 ブース No. OC-33

実施日及び対応スタッフ :

10月28日(水) NPO 法人自然体験学校4名 ※搬入日

10月29日(木) NPO 法人自然体験学校4名、午後:ネイチャーみらい館 松田氏、

10月30日(金) NPO 法人自然体験学校4名、午前:石垣島観光 成底氏、

10月31日(土) NPO 法人自然体験学校3名、NPO 法人おおぎみまるとツーリズム協会 宮城氏

11月 1日(日) NPO 法人自然体験学校4名 ※搬出日



名刺交換リスト (同一会社で複数名と挨拶した場合は1社のみ記載・順序不同)

株式会社 JTB 海外仕入商品事業部	名鉄観光サービス株式会社 和歌山支店
株式会社 日本旅行 赤い風船九州事業部	株式会社日本旅行 沖縄仕入・誘客推進センター 兼赤い風船九州事業部
株式会社近畿日本ツーリスト中部 団体旅行販売部	クラブツーリズム株式会社 営業企画部
株式会社 IACEトラベル 東京支店 東日本統括営業部	ワールド航空サービス プランニング事業本部
日通旅行株式会社 団体営業部	東急株式会社 交通インフラ事業部
沖縄ツーリスト株式会社 イベント開発室	株式会社 国際旅行社 営業部
アーバントラベルサービス	株式会社 ツアーバンクシステム 沖縄支店
アルパインツアーサービス株式会社	株式会社 SEEK 沖縄営業所 旅行事業部
日本放送協会 沖縄放送局 放送部	株式会社ダイヤモンド・ビッグ社 地球の歩き方
一般社団法人 日本アドベンチャーツーリズム協議会	独立行政法人 国際協力機構 沖縄センター
一般社団法人 日本エコツーリズム協会	一般社団法人 東北観光推進機構 事業推進部
株式会社 リクルートライフスタイル沖縄	沖縄県車海老漁業協同組合

那覇空港ビルディング株式会社 事業部	沖縄リムジンバス株式会社 企画営業
一般社団法人 九州通訳・翻訳者・ガイド協会 事業部	株式会社 百戦錬磨 事業開発本部
住友商事北海道株式会社	AB アコモ株式会社
丸正印刷株式会社	株式会社 沖縄ダイケン 経営企画部
株式会社バム コークリエーション 観光マーケティング戦略チーム	特定非営利活動法人 itswellness
株式会社 国建システム	漫遊沖縄株式会社
一般社団法人 ONE-WORLD 医療福祉国際交流事業団	アーユルウェルネス株式会社
株式会社 インアウト・ツーリズム研究所	株式会社 アジソンコンサルタンシー
ジョイフェスト株式会社	株式会社 イースト
KASHA okinawa LLC. Co-works®	合同会社 パケーションホリデーハウスマネジメント
株式会社 エアサーブ	株式会社 ケンネット 通信機器事業部
株式会社メメントリップ	株式会社りゅう
株式会社 やまごころキャリア	三鷹トレーディング株式会社
株式会社 IRUMANO(イルマノ)	株式会社 Humming Bird
Experience Inc.	DAT PLUS
株式会社 ZUMI	NEW BOLD 株式会社
CCC MARKETING HOLDINGS 株式会社	Mitaka Seihan Industrial Nameplate
Quantum Leaps Complex Office	ティーアールピージャパン株式会社
ハイアットリージェンシー那覇 沖縄	株式会社 星野リゾート マーケティンググループ
株式会社 前田産業	ホテルマネージメントインターナショナル株式会社 リザンシーパークホテル谷茶ベイ
琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ 企画準備室	WBFリゾート沖縄 瀬長島
ANSA沖縄リゾートホテル	沖縄アウトレットモールあしびなー
大和情報サービス株式会社 SC運営部(西日本担当)	大和情報サービス株式会社 イーアス沖縄豊崎
学校法人滋慶文化学園 福岡ウェディング&ホテル・IR専門学校	学校法人 九州文化学園 長崎国際大学 人間社会学部
学校法人コミュニケーションアート 大阪ウェディング&ホテル・IR専門学校	ユナイタマ マーメイドガイドスクール
国土交通省 関東運輸局 観光部	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 誘客事業部
内閣府沖縄総合事務局 経済産業部	内閣府沖縄総合事務局 経済産業省
沖縄県 農林水産部	沖縄県 商工労働部
いすみ市役所 オリンピック・観光課	一般社団法人 南丹市美山観光まちづくり協会

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 沖縄事務所	株式会社 美ら海パーク
一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー 受入事業部	一般財団法人 沖縄 IT イノベーション戦略センター
那覇市観光協会	豊見城市 総務企画部
一般社団法人 南城市観光協会	ウェルネスリゾート沖縄休暇センター ユインチホテル南城 宿泊部
名護市 地域経済部 屋我地支所	大宜味村観光協会
一般社団法人 北谷町観光協会	沖縄県久米島町 商工観光課
竹富町役場	竹富町商工会 事務局
一般財団法人 竹富島地域自然資産財団	一般社団法人 北大東振興機構
一般社団法人 伊江島観光協会	しろう農園株式会社
一般社団法人 座間味村観光協会	沖縄県座間味村役場
株式会社 星砂 西表島黒米生産組合 大浜農園	株式会社 由布島
農業生産法人 有限会社 西表生産農園	西表島パイランドファーム
沖縄県 宮古島市議会議員	衆議院 議員
石垣島観光	セーフティサービス ガジュマル
西原町のパイン農家さん	

ツーリズム EXPO ジャパン PR のために作成したポスター、資料



掲示用ポスター①



掲示用ポスター②

沖縄県グリーン・ツーリズムネットワーク



【会員団体】			
一般社団法人国頭観光協会 (国頭村)	〒905-1412 国頭村字奥間1569番地1	TEL 0980-41-2420 FAX 0980-41-2535	
NPO法人おのぎまると観光協会 (大宜味町)	〒905-1314 大宜味村字中道1357-18	TEL 0980-44-1930 FAX 0980-44-1931	
NPO法人東村観光推進協議会 (東村)	〒905-1204 東村字平良471-24	TEL 0980-51-2655 FAX 0980-51-2656	
ネイチャーみらい館 (金沢町)	〒904-1201 金沢町字吉武11818-2	TEL 098-968-6117 FAX 098-968-6187	
琉球舞踊館うどぅい (南城市)	〒901-104 南城市字つきしろ1539-247	TEL 098-949-7056 FAX 098-949-7056	
一般財団法人沖縄青年会館 (那覇市)	〒900-0033 那覇市久米2-15-23	TEL 098-864-1780 FAX 098-864-1783	
NPO法人自然体験学校 (八重瀬町)	〒901-0512 八重瀬町字兵衛浜296番地 緑ビル1F	TEL 098-938-0330 FAX 098-938-3506	
一般社団法人伊江観光協会 (伊江村)	〒905-0503 伊江村字川平619-3	TEL 0980-49-3519 FAX 0980-49-3529	
合同会社宮古島さるかの里 (宮古島市)	〒906-0107 宮古島市読字敷村149-18	TEL 0980-77-7691 FAX 0980-77-7692	
石垣観光 (石垣市)	〒907-0243 石垣市宮良1061-2	TEL 0980-86-8986 FAX 0980-86-7254	

【お問い合わせ】 沖縄県農林水産部村づくり計画課 農村活性化推進班
住所 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
電話 098-866-2266 FAX 098-869-0557

「さと旅ぐりーんちゅ」挟み込み用(団体一覧表)

イ. おきなわ花と食のフェスティバルへの出展

新型コロナウイルスの関係によりイベントが延期となったため、残念ながら本年度出展を見送ることとなった。

ウ. その他プロモーション活動

新型コロナウイルスの関係により緊急事態期間等があったため、旅行会社、ホテル、及びツーリズム EXPO 来場者への後追い営業・プロモーションについては、残念ながら見送ることとなった。

(3) 本事業終了後のグリーン・ツーリズムネットワークの自走化を見据えた仕組みづくり

ア. 先進地視察（神奈川県 ^{おおいまち} 大井町）

計画当初、ロードマップの作成を行うため、組織の自走化モデルの先進事例調査ということで県外視察を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で視察先と調整がつかず、今年度事業での実施は見送ることとなった。代替案としてグリーン・ツーリズム会員への研修の一環として先進地視察を次年度（令和3年度）に実施するにあたり、研修計画作成のための神奈川県大井町へ事前視察を行った。

神奈川県の大井町は、受託者であるNPO 法人自然体験学校が体験観光に関わる人材育成やまちづくりの支援を行っている。体験活動指導者（NEAL の認定含む）が約75名登録されており、高齢者中心であっても、しっかりしたグリーン・ツーリズムの受入れに必要な安心・安全の体制について参考になる地域である。

参加者：宮古島さるかの里 松原 敬子（グリーン・ツーリズムネットワーク会長）
 NPO 法人おおぎみまるごとツーリズム協会 宮城 （グリーン・ツーリズムネットワーク部会長）
 沖縄県農林水産部村づくり計画課 近江 あゆみ
 NPO法人自然体験学校 若林 伸一
 NPO法人自然体験学校 乳井 亜矢子

スケジュール：

12月13日（日）

時間	内容
07:10	那覇空港 搭乗口で集合
07:30	那覇空港 発 JAL900
09:40	羽田空港 着
10:01	羽田空港(京浜急行)⇒ 品川
10:34	品川 (新幹線こだま 717)⇒ 小田原
11:10	小田原 (小田急)⇒ 新松田 (送迎)⇒ 神奈川大井の里体験観光協会
12:00	昼食・周辺の畑散策・みかんアイスづくり体験視察
12:50	みかん収穫総もぎ体験 視察
15:00	みかん石鹸と洗浄スプレーづくり参加
17:00	開成駅にて解散

12月14日（月）

時間	内容
9:40	開成駅着
10:00	大井の里体験観光協会事務所着、あいさつ、竹の圃場へ移動 竹林荒廃、竹林整備体験(フィールド紹介、実施手順、安全対策など) 炊飯体験 竹箸づくり体験
12:30	昼食&情報交換会 ・桜の竹筒ごはん けんちん汁 地元野菜の漬物
13:30	(一社)神奈川大井の里体験観光協会の設立、取り組み、活動紹介など
16:00	石井酒造視察
17:00	終了

12月15日（火）各自解散

視察の詳細について

・みかん総もぎ体験イベント

大井町相和地区では、少子高齢化、農家の後継者不足もあり、栽培しているみかんを収穫ができないという課題があった。みかんは通常2度切りが必要で、それが農家の手間になる。また、収穫しないまま放置すると、次年度以降の収穫ができない状態になる。

そのため「みかんの総もぎ」という体験プログラムとすることで、地域課題の解決につなげた。今年度で2回目の実施となるイベントで、前回のリピーターが多くチラシを全配布する前に満員となった。希望者は総もぎ体験の前後に、みかんのアイスづくり、石けん作りなどに参加できる。(有料)

「新型コロナウイルス対応ガイドライン」に準じ、三密を避けて実施いたします！

12/5 土曜日 12/6 日曜日 12/12 土曜日 12/13 日曜日

午前部 09:30-11:30
午後部 12:50-14:50
※小雨決行

2020年!!どーん!と4日間の開催!!

神奈川県 大井町で、みかんの収穫。ぜ〜んぶ探って、みんなで山分け!

丸ごと一本、総もぎ体験!

開催場「みかん食べ放題!」 集合場所 (一社) 神奈川大井の里体験観光協会の事務所前
〒258-0012 神奈川県足柄上郡大井町 248 ※裏面、地図参照

定員 各回、先着 80名! (各日共に午前・午後)
参加費 1口 3,000円 (1名分の体験料込み)
追加体験料・中学生以上 1,000円/人、小学生 500円/人
※体験料とは、プログラム体験・振替料、発着料等です。
例・家族4名(大人2名、小学生2名) 1口の場合
3,000円+1,000円+500円+500円=5,000円

※口数は、収穫したみかんを山分けする際の取り分になります。
例・20個のグループで各1口ずつ山分けする場合
収穫量が600gだと、1グループ300gずつ山分けします。
収穫量によって収穫量が異なりますが、1口に付きみかん1袋分(約1kg)を確保いたします。ぜひ、山分けを楽しんでください!
※当日の団体で「総もぎ体験」をご希望の場合は、専用のみかんの袋を持参します。(20,000円/本)

持ち物 水筒、手袋、軍手、マスク、お持ち帰りの容器、防寒具など
申込締切 2020年11月30日(月)

農家の
お手伝い。

※昨年の様子は、facebookページをご覧ください。

たっぷりみかんを使って...
アイスづくり体験や石鹸づくり体験も開催!

※体験プログラムは別途、申込み・体験料が必要となります。(下記参照)
※「総もぎ体験」と「体験プログラム」をセットでお申込みの方、「体験プログラム」を500円/人割引!

組み合わせ自由
選んで申込み!

1日遊ばせませう!例えば...
「総もぎ体験」→「アイスづくり」
→「里山でお弁当」→「石鹸作り」

お申込み
※ご希望する日程の体験QRコードまたは、URL: https://www.kokuchopro.com/event/***/の「***」に体験QRコードの下に記載のアドレス【2020mikan01】【2020talken01】などを追加しよりお申込み下さい。

時間・プログラム	12/5	12/6	12/12	12/13
09:30-11:30 みかんの収穫 総もぎ体験①	2020mikan01	2020mikan03	2020mikan05	2020mikan07
11:40-12:40 みかんアイス作り アイスづくり体験 1,500円/人 定員:各25名	2020talken01	2020talken03	2020talken05	2020talken07
12:50-14:50 みかんの収穫 総もぎ体験②	2020mikan02	2020mikan04	2020mikan06	2020mikan08
15:00-16:00 みかん石鹸と 洗浄スプレーづくり体験 2,000円/人 定員:各25名	2020talken02	2020talken04	2020talken06	2020talken08

主催:一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会
TEL/FAX 0465-43-6309
HP <http://www.taikenkankou.com>
E-mail office@taikenkankou.com

協力:大井町 SNS 随時更新中!
後援:神奈川県教育委員会・厚木市教育委員会
町田市教育委員会

お茶1 県名高道通 大井町 IC から約10分
電車1 小田原小田原線「新緑駅」から約徒歩15分

12月のみかん収穫時期に実施されるイベントで最終日に参加した。今回の参加者は22組86名。



総もぎ体験の様子①

全体に説明の後、収穫体験を行う。



総もぎ体験の様子②

もいだみかんはカートンに入れる。



総もぎ体験の様子③
脚立も利用。木に登ってもOK。



収穫したみかんを分配。木によって味や大きさが異なるため等分に分ける。

・みかんの石けん&スプレーづくり体験



材料にみかんの皮を使用する。



みかん石けんの完成品。

竹林整備体験



竹林の説明



竹の伐採体験(2人1組で体験する)

・竹林整備をする理由

そのままにすると、竹が密集し地滑りの原因になる。また、獣害につながる。整備をすることでこれらが解消され、下草に陽が当たり下草が生える。理想の竹の感覚は約90cm(番傘をさして歩けるくらい)手入れができず放置されている竹林がほとんど。

- ・最大40人 団体、個人は受入れ内容等を考慮し案内をしている。雨天プログラムもあり。
- ・安全面の配慮 ヘルメット、軍手の着用。のこぎりの使い方をきちんと説明している。
- ・今回の場所は所有者の理解があるため、隣接する住宅にあるトイレを使わせてもらえる。
- ・別の圃場になった場合のトイレ、水の確保、バスなど車両の駐車場所が今後の課題。

神奈川大井の里体験観光協会・大井町役場の取り組みについて

視察先対応者：神奈川大井の里体験観光協会 会長 夏苺氏

神奈川県大井町地域振興課 原氏

・大町町相和地区の活性化

神奈川大井の里体験観光協会の事務所がある相和地区は、数年前から限界集落になる想定があることから、町の総合計画において相和地区活性化のため、前身の「相和もりあげ協議会」という組織として農泊事業などを実施してきた。その時から若林副会長と縁があり、アドバイスを受けており、これまでに約75名の体験活動リーダーを育成した。また、自走化するための組織として「神奈川大井の里体験観光協会」として2年目を迎えた。

一般向けの体験イベントを実施し、経験を積み重ね、本年度から本格的に修学旅行誘致に動いた。令和3年2月発行予定の月間教育旅行にも掲載される。

「安心・安全」「ストーリー」「時間管理」を心がけている。

官民一体での取り組み。意思疎通を図っている。



・みかんの総もぎ体験プログラムになった経緯

地域で困っていることを体験にするという若林副会長の提案から、みかん畑で困っていることが挙げられ、それを商品化した。みかんは全てもがないと木がダメになってしまう。また、みかんを商品として出荷する場合は2度切りが必要だが、人手不足のため2度切り(※)ができず、1度切りをしてみかんを下に落とし、廃棄している。冬になるとみかんの木の下がみかん色になっている。

(※)2度切り・・・一度目はみかんに枝がついている状態。2度目はみかんに傷がつくのを防ぐため枝を根元から切ること。

総もぎ体験には農家さんへの説明、理解が必要。木をまるごと買い取っている。もげずに困っている農家さんからは感謝されている。

下草の整備など、管理されているみかん畑は買い上げ代が高い。

みかんの総もぎ体験をきっかけに、みかんの木オーナー制度などができた。

参加者からは沖縄ではシークワサーにもできそうという意見があった。

イ. 「沖縄、ふるさと百選」認定団体におけるグリーン・ツーリズム実施状況調査

沖縄県内の「沖縄、ふるさと百選」に認定されている133団体を対象に下記の通り、調査を行った。

状況調査手順と概要

- ・沖縄県ホームページに掲載されている「沖縄、ふるさと百選」市町村別認定状況(令和2年1月現在)より、県全体で認定を受けている団体は133団体あることが示された。
- ・各認定団体により作成された活動内容の紹介資料を参考に、グリーン・ツーリズムを行っている団体を抽出した。133団体のうち11団体がグリーン・ツーリズムを行っていることが分かった。
- ・上記、11団体に対して電話連絡を行い、実際の取り組み状況を聞き取った。受け入れ数については、新型コロナウイルス流行前を参考としている。

実施状況まとめ

- ・下記の表は、電話で聞き取った体験の実施状況をまとめたものである。

	事業者名	取り組み状況
1	きゆな牧場	乳しぼり体験・バター作り体験などを実施。年間 2000 人。
2	そーれの会	過去に体験の受け入れをしたことがある。
3	JA おきなわ北部地区 営農振興センター	問い合わせがあれば随時対応可能。
4	宜野座村 松田区	鍾乳洞、海岸の自然体験を実施。グリーン・ツーリズムではない。
5	JA おきなわ中部 ファーマーズマーケット チャンプルー市場	店舗で集客を行っており、大型バス 2 台ほどの受入れをすることがある。対応可能な農家は数名いる。
6	与那城伊計自治会	問い合わせがあれば、随時対応可能。基本的には地元向けの体験。
7	ぐしちゃんいも生産組合	収穫体験への参加者がこれ以上増えると、芋が足りなくなるため困る。
8	伊江漁業協同組合	海人がプロデュースした海人体験プログラムを実施。
9	狩俣追い込み漁「友利組」	問い合わせがあれば随時対応可能。
10	みゃーくの味加工推進協議会	現在も 6 次産業の取り組みは行っている。
11	北部漁友会	ハーリー体験・魚さばき体験を実施。

グリーン・ツーリズム実施状況

- ・11団体のうち、グリーン・ツーリズムの体験を継続的に行っている団体は4団体であった。
- ・一般参加者に加え教育旅行の受入れを推進していくためには、県内グリーン・ツーリズムのネットワークを強化し、安心・安全な環境を整備していく必要がある。

ウ. 沖縄県内のグリーン・ツーリズム関係団体への訪問

グリーン・ツーリズムネットワーク会員、及び関係団体に対して本事業の説明と事業への協力依頼、またグリーン・ツーリズムネットワークへの加入促進のため、以下の団体へ訪問し直接説明を行った。

6月

沖縄県農林水産部 南部農業改良普及センター	沖縄県農林水産部 北部農林水産振興センター
沖縄県農林水産部 中部農業改良普及センター	南の味グリーン・ツーリズム研究会

7月

山原女性農業者の会	宮古島さるかの里
一般社団法人 宮古島観光協会	のばれ岬観光農園
美ら味堂(アセロラ果樹園)	川平観光農園
石垣市農林水産部農政経済課・企画部観光文化課	沖縄県農林水産部八重山農林水産振興センター
一般社団法人石垣市観光交流協会	一般社団法人八重山ビクターズビューロー
竹富町観光協会	バラビドー観光農園
CAFE笑顔の畑	JellyFish(ジェリー・フィッシュ)

8月

西原町役場 建設部 産業観光課	JA おきなわ 豊見城支店
沖縄県酪農農業協同組合	ファーマーズマーケット与那原 あがりはま市場
あかみね果樹園(スターフルーツ狩り)	ぐしちゃんいも生産組合
アセローラ大田園	読谷村観光協会
沖縄市観光物産振興協会	北中城村観光協会
北谷町観光協会	知念漁業協同組合

9月

宜野座村産業振興課	宜野座村漁業協同組合
恩納村観光協会	うるま市観光物産協会
与那城町漁業協同組合	海ぶどう平安座養殖場
読谷村漁業協同組合	恩納村漁業協同組合
ちゅらむら読谷	ネイチャーみらい館
きゆな牧場	国頭漁業協同組合
NPO 法人おおぎみまるごとツーリズム協会	

10月

琉球舞踊館うどい	TM.Planning
----------	-------------

11月

一般社団法人 宮古島観光協会	みゃーくの味加工推進協議会
宮古島さるかの里	伊良部漁協
宮古観光開発株式会社 まいぱり	ユートピアファーム視察
宮古島ひととき散歩	池間島観光協会
しろろ農園	LA MANGUE BLEUE ラ マンゴー ブルー

12月

宮古島さるかの里	みゃーくの味推進協議会
伊良部漁協(さばき体験の検証)	NPO法人久志地域観光交流協会
一般社団法人 本部町観光協会	合同会社 健堅
今帰仁村観光協会	

3月訪問

一般社団法人 本部町観光協会	羽地民泊推進協議会
一般社団法人 今帰仁村観光協会	おおぎみまるごとツーリズム協会
ネイチャーみらい館	北中城村観光協会
中城村観光協会	

■グリーン・ツーリズムネットワーク 加入促進について(令和3年3月25日現在)

関係団体に直接訪問・説明し、本事業の説明とグリーン・ツーリズムネットワークへの加入促進を図ったことから、令和2年度内に1団体加入、4団体が仮申請を行うこととなった。

①新規加入団体

一般社団法人 宮古島観光協会(令和3年1月から加入)

②申込団体(事務局に於いて、添付書類等内容確認後、委員会での承諾を得る必要がある。)

- ・一般社団法人 池間島観光協会
- ・一般社団法人 本部町観光協会
- ・一般社団法人 今帰仁村観光協会
- ・羽地民泊推進協議会

<考察>

グリーン・ツーリズムネットワークの趣旨や活動については、賛同して下さる団体・個人が多い一方、加入を検討するにあたり、民泊をしていない団体への条件がわかりづらいこと、個人(農家)や民間会社が加入できる条件が整備されておらず、加入できない状態となっているため、次年度以降、加入要件について検討するべきである。

■沖縄県グリーン・ツーリズムネットワーク運営会議への参加

以下の日程で実施した令和2年度グリーン・ツーリズムネットワーク運営委員に出席した。

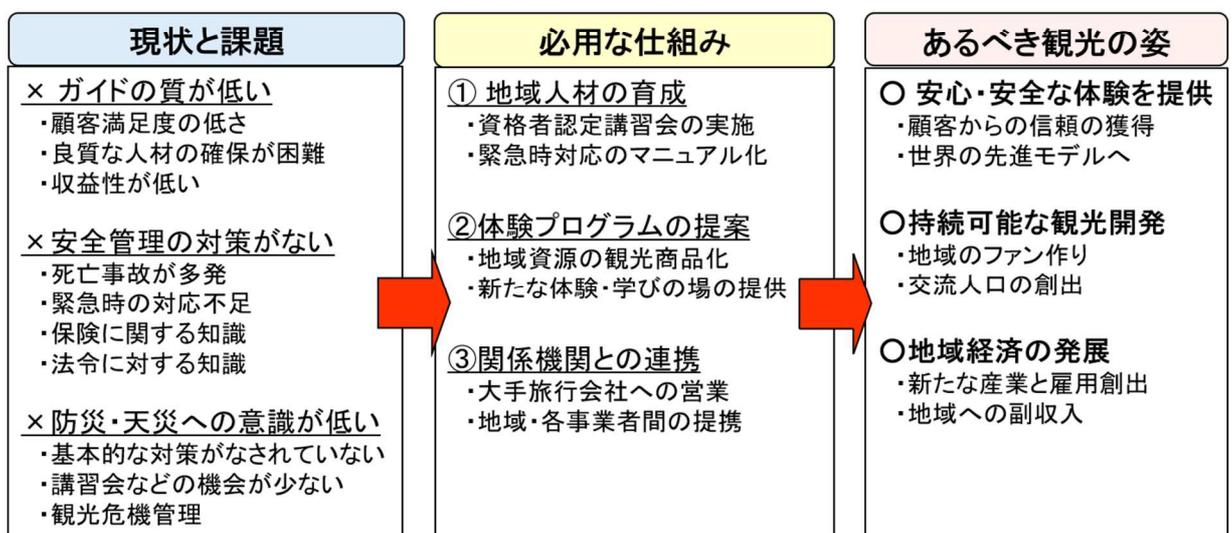
7月21日(火)・11月4日(水)

エ. ロードマップ案について

本事業は令和2年度～4年度を予定しており、今年度は1年目の取り組みとなった。
 本事業終了後にグリーン・ツーリズムネットワークが自走できるような仕組み「(仮称)沖縄県
 グリーン・ツーリズム協会」及び自走化までのロードマップ(案)を作成したので提案する。

目標

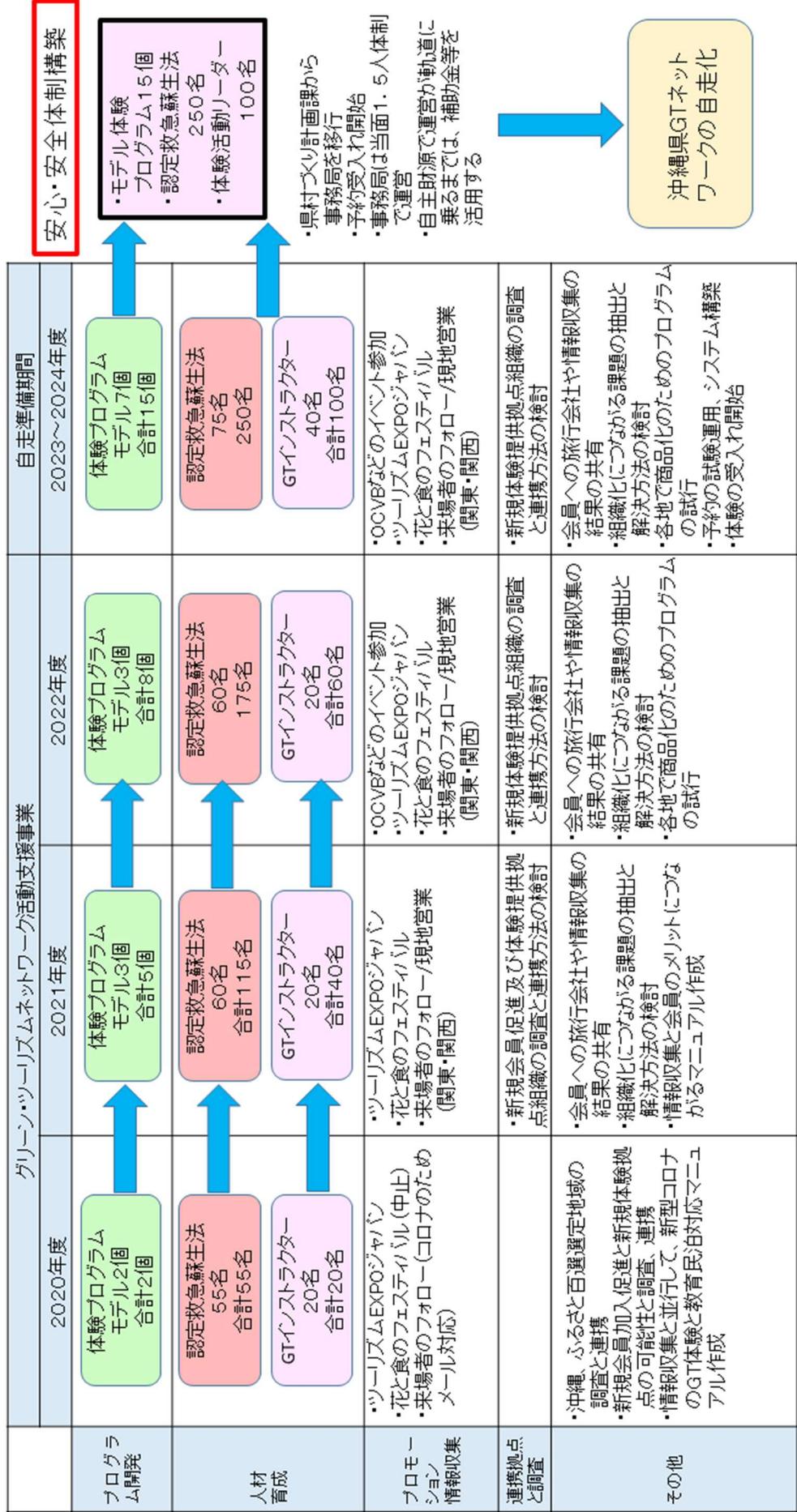
- ・安心・安全が保障されたグリーン・ツーリズムの仕組みを構築する。
- ・県認定資格者制度の普及による観光産業の持続的な発展を目指す。



(仮称) 沖縄県グリーン・ツーリズム協会 自走のための仕組み(案)



沖縄県グリーン・ツーリズムネットワークの自走化に向けたロードマップ(案)



<<総括>>

現状、沖縄県の体験の受け入れについては、安心・安全に関するの体制や基準が整っておらず、また体験についてもマニュアルもなく、受入れの際にも農作物の説明をしないで収穫させるといったことが各所で行われており、グリーン・ツーリズムの体験として「安心・安全」に受入れるための基準がほとんどない状態である。

これまで沖縄県には約42万人の修学旅行生が来ていたが、新型コロナウイルスの影響により、全国的に修学旅行の方面を見直す動きが出ている。そのような状況において、「安心・安全」な受け入れ体制が整備されていないのは危機的状況にある。

本事業において、沖縄県のグリーン・ツーリズムが「安心・安全」に受け入れられるための体制整備を進めるため、沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター講習会、救急蘇生法講習会といったリスクマネジメント研修会、また体験プログラムマニュアル作成や新型コロナウイルスマニュアル作成を重点におき実施した。

沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクター講習会では、これまで行われてこなかった「安心・安全」の受け入れ体制構築の必要性について、受入側(受講者)が改めて知り、考える機会となった。

また、安全に実施するための知識を得て、実施方法を知ることによって、今後のそれぞれの受け入れに活かしていけるものとなった。

今後、沖縄県のグリーン・ツーリズムの推進において、安心・安全な受け入れは不可欠であり、初の沖縄県グリーン・ツーリズムインストラクターという人材が養成できたことは大きな成果であると感じている。

このように講習会の実施やマニュアル作りを行ったことで、今後のグリーン・ツーリズムを安心・安全に実施できる人材の育成を行うことができた。また、今後も継続して、このような人材を増やしていくことが、沖縄県全体のグリーン・ツーリズムの質の向上と誘客に繋がっていくと考える。

本事業は、グリーン・ツーリズムネットワーク会員の皆様のご協力があったからこそ実施することができた。沖縄県のグリーン・ツーリズムを推進していくうえで、非常に意味のあることであり、今後の沖縄県グリーン・ツーリズムの推進に必要な第一歩となったと感じている。

今後、グリーン・ツーリズムや体験観光の推進をするためには、安全管理を学んだ指導者は欠かせない存在といえるため、グリーン・ツーリズムネットワークとグリーン・ツーリズムインストラクターが協力・連携しながら、今後の沖縄県のグリーン・ツーリズムを盛り上げていくべきと考える。

令和3年3月

沖縄県 農林水産部 村づくり計画課

受託 : 特定非営利活動法人 自然体験学校